

《 専門職大学院認証評価結果における改善事項への対応 》

整理No.	基準	問題点(検討課題)等	改善事項へのアクション	対応部局等
1	1	使命・目的を実現するための中長期のビジョンに相当するものは、貴大学の中期計画および中長期のビジョンである「明日の山口大学ビジョン」のなかで示されているが、研究科独自の中長期ビジョンを具現化したものは策定されていないため、改善が望まれる。	研究科長を委員長とするプロジェクト委員会(3名)を立ち上げ、平成22年度末を目標に検討中である。	技術経営研究科
2	2-(1)	教育・研究の国際化については、これまでさまざまな実績を挙げているが、貴専攻としての国際化に関する方向性は必ずしも明らかになっていないと難しいため、今後明確にすることが望まれる。	研究科長を委員長とするプロジェクト委員会(3名)を立ち上げ、平成22年度末を目標に検討中である。	技術経営研究科
3	2-(2)	学生が提出したレポートの評価結果については、各担当教員の判断で評価結果を学生に連絡することになっているため、教員間で不統一が生じている。これに関して、教員から学生に対する試験やレポート結果のフィードバックに関する規則を作成して成績評価のフィードバックを徹底することが望まれる。	教員から学生に対する試験やレポート結果のフィードバック等に関する規則については教務委員会にて策定中である。 点検・評価報告書に記載しているように、過去には教員間で不統一となっていたが、教員会議で審議・確認しているため現在では不統一は解消されている。	技術経営研究科
4	2-(3)	宇部・北九州・広島3教室で、各科目を3週間に1度3時限連続で開講する現在の学修モデルについては、そのさらなる進化および今後の持続可能性確保の観点から、特にその教育効果を検証する必要があるため、教育効果の評価指標や基準を策定し、検証に取り組んでいくことが望まれる。	現在の学修モデルが従前の学修モデルより優れていると考えており、平成22～24年の3年間で教育効果について検証することとする。	技術経営研究科
5	3	現行の学修モデルの持続可能性を確保する観点から、教員の教育上の負担には常に配慮を払っていくことが望まれる。	教員から教育上の負担に関する特段の問題点は提起されていない。 現行の学修モデルは専門職大学院の特性を反映した授業形態(理論と事例研究の組み合わせ)と認識しており、現行学修モデルを変更することは考えていない。 ただし、選択科目については教員の負担軽減を図るために隔年開講を検討する。	技術経営研究科
6	5	貴専攻における教育活動等の拠点が3箇所に分かれているため、学生生活全般への相談・支援体制が十分なものとなっているか、今後の検証を要する。	殆どの学生が社会人であり、かつ少人数教育を実施している現状、および全学的な相談・支援がインターネット等でも受けられる体制になっていることを考慮すると、現行の相談・支援体制で十分と考えている。ただし、学生に対する相談・支援体制の説明およびヒアリングは継続し改善を図る。	技術経営研究科
7	7	授業実施日における事務職員体制が、非常勤職員1名で十分であるかについては、今後検討することが望まれる。	3教室体制とした当初は授業開講日に各教室に事務職員1名を配置していたが、その利用状況や人件費負担を考慮して北九州・広島教室の事務職員を削減し、宇部教室に1名配置する現在の体制に変更したものである。事務職員体制の充実のために、恒常的な予算措置を行い、今後改善を推し進めていく。	工学部事務部・ 技術経営研究科
8	8	自己点検・評価の結果については、ホームページなどを通じて広く社会に公表していくことが望まれる。	自己点検・評価の結果については全学の規則に則して対応している。なお、本研究科が独自に実施しているものについては平成22年度よりホームページで公開する。	技術経営研究科